瀬戸内国際芸術祭２０１９基本計画の概要

瀬戸内国際芸術祭2019は、前回同様3会期制とし、今回は、それぞれの会期に「ふれあう春」、「あつまる夏」、「ひろがる秋」というシーズンテーマを設定して、会期ごとの特徴を際立たせます。会場は、前回と同じ12の島と2つの港とします。

重点的な取組みの視点として、①みつける－瀬戸内に光る「モノ」「コト」「ヒト」の発掘と発信、②つながる－人と人、島と島、地域と世界の交流、③はぐくむ－島の「滞在」を彩る担い手の育成を掲げ、地域の伝統文化の中で育まれてきた「ものづくり」に焦点を当てるほか、これまでの芸術祭で培ってきた「縁」をより具体化させるため、来場者、島同士、世界各国とのつながりを一層強化するとともに、宿泊施設や食事提供など、各島における交流や地域活性化の基盤を担う人材を育成するプロジェクト（新・瀬戸内フラム塾）などに取り組みます。

１　開催概要

〇名称　瀬戸内国際芸術祭2019
Setouchi Triennale 2019

〇会期

季節	シーズンテーマ	会期	日数
春	ふれあう春	2019 年４月 26 日（金）～５月 26 日（日）	31 日
夏	あつまる夏	2019 年７月 19 日（金）～８月 25 日（日）	38 日
秋	ひろがる秋	2019 年９月 28 日（土）～11 月４日（月）	38 日
合計日数			107 日

〇会場　直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、
沙弥島（春会期）、本島（秋会期）、高見島（秋会期）、粟島（秋会期）、伊吹島（秋会期）、
高松港周辺、宇野港周辺

〇主催　瀬戸内国際芸術祭実行委員会

２ 重点的な取組みの視点

(1)みつける－瀬戸内に光る「モノ」「コト」「ヒト」の発掘と発信

瀬戸内が誇る地域文化への関わりを、独創性のある「モノ」や「コト」に広げ、特徴的な活動を行う「ヒト」の視点から「ものづくり」を掘り起こし、発信する。

(2)つながる－人と人、島と島、地域と世界の交流

地域住民とアーティストサポーターとの交流、島の住民同士の交流などの機会を設け地域の活性化を図るとともに、海外の方々と交流できるイベント等により世界各国とのつながりを強めていく。

(3)はぐくむ－島の「滞在」を彩る担い手の育成

飲食、宿泊等の施設運営やアートマネジメント、ボランティアマネジメント等、地域の活性化を担う人材育成を目的とした「新・瀬戸内フラム塾」に取り組む。

３ 事業内容

○会場ごとのアート展開の方向性

会 場	事 業 内 容
直 島	これまでに蓄積されてきた豊かなアート施設を活かしつつ、今後は、特にアーティストの参加による学校での美術体験に力を入れていく。
豊 島	アートと農業の関わり方をベースとし、既存施設の回遊が行われるようにするほか、民泊などを充実させ、島民と訪問者の協働をはかっていく。
女木島	西浦も含めて、鬼ヶ島という伝説と、島の施設全体がアイデンティティをもって連動する作品展開を行っていく。
男木島	移住者を交えた島民が芸術祭活動と連動しつつも、理想的な共同体をつくっていくための方策にアートが伴走していくようにする。
小豆島	初回の中山・肥土山地区から始まり、各港をベースに作品展開を行ってきており、この動きをベースに土庄町、小豆島町の地域振興方針と関わるよう作品展開を進めていく。
大 島	住民、大島青松園、高松市、香川県と連携しながら、今までの活動を維持しつつ、将来の島のあり方を見据えた活動を行う。
犬 島	犬島の歴史、文化、資源、人をより体感できる取組みを具現化し、「滞在」を通して島民と来島者がともに次世代の循環型、持続可能な「くらし方」「生き方」を一緒に考えていけるような機会と空間を提供する。
沙弥島	従来の展開を受け継ぎつつ、与島地区5島の連携を図る作品展開を考えていく。
本 島	塩飽水軍の本拠地として栄えた島独特の歴史、重要伝統的建造物群保存地区に選定されるほどの整った町並みに作品をあわせて制作していく。
高見島	引き続き京都精華大学のプロジェクトを中心にアート展開を図るほか、島外からの参加者があるイベントを展開する。
粟 島	粟島海洋記念館の改修を踏まえ、その内容に芸術祭が関わりを持つように作品を展開していく。記念館を基点に作品の広がりが島全体にもたらされることを重視する。
伊吹島	島の中の各地域に歴史的な独特のポイントがあることから、それら地域の個性と作品とが結びつくように作品展開を進めていく。
高松港周辺	港一帯が物産、地域のショールームになるように工夫するほか、高松港を拠点にアジアとのつながりをより充実させるようにする。屋島も含めた作品展開を充実させる。
宇野港周辺	連絡船の町としてのブランド化が促進されるような作品展開を行うとともに、過去の開催で充実してきた高校生をはじめとする住民との関係性を強めていく。

○その他

- パブリシティーの活用、SNS等による情報発信、海外の来場者を増加させる広報活動
- 交通や宿泊など受入態勢の充実について可能な対応の検討
- 来場者への情報提供について、案内所の設置、モバイルアプリの活用、外国語対応等の検討
- ボランティアサポーター「こえび隊」の育成・強化、地域におけるサポーター増加に向けた取組み
- 企業パートナーとの連携や、瀬戸内エリアで開催される他の文化事業との連携推進
- 来場者が利用しやすいチケット制度や、オフィシャルグッズの開発等の検討